



MBT NEWS LETTER

第12号
'19/06/25

6月21日、産学連携学会第17回大会（奈良大会） オーガナイズドセッションで“MBT”を特集

◇産学連携学会第17回大会は、6月20日（木）、6月21日（金）の2日間にわたり、奈良県文化会館で開催されました。大会初日には、（一社）日本総合研究所会長/多摩大学学長/帝塚山大学特別客員教授の寺島実郎氏による「テーマ：ジェロントロジーへの体系的挑戦ー超少子高齢化社会の地域経営ー」の特別講演が行われ、全国から集まった多くの会員で盛り上がる中、スタートが切られました。

◇初日の午後から2日目にかけて、産学連携にかかる学術講演やオーガナイズドセッションが開催されました。全国の産学連携に関わる多数の関係者が集まる中、2日目の午後には、産学連携活動の先進事例として、奈良県立医科大学とMBTコンソーシアムの取り組みが、オーガナイズドセッション「MBT(医学を基礎とするまちづくり)」で特集されました。

◇オーガナイズドセッションでは、MBT研究所細川研究教授がオーガナイザーを務め、奈良医大と会員企業からの6人の発表者が登壇、MBTの活動内容や成果を発表しました（詳細裏面に記載）。



オーガナイザーの
細川洋治研究教授



オーガナイズドセッション会場

発行

オーガナイズドセッションの発表者と発表概要



○塩山忠夫（奈良医大MBT研究所、MBTコンソーシアム）

タイトル「MBTの概況について」

- ・MBTは奈良医大の医師達の医学的知識や叡智を注ぎ込み、産業創出、少子超高齢者に適したまちづくりを行う活動であることをPR。
- ・MBTコンソーシアム体制、活動内容、社会貢献を目指す会員を紹介。



○梅田智広（奈良医大MBT研究所、MBTリンク株式会社）

タイトル「奈良医大発ベンチャー第1号“MBTリンク社”について」

- ・産学連携のアウトカムとは何か。それは研究成果に加え、成果の早期社会実装にあるはずだとの立場から取り組んできた事例、成果、そして、医大初ベンチャー設立に至る背景および今後の方針を報告。



○遊佐敏彦（奈良医大MBT研究所）

タイトル「MBTとまちづくり」

- ・産学連携のフィールドを提供するためにはまず大学と地域が強固な関係結び、土台作りのためのまちづくりを行うことが重要である。高取町及び橿原市今井町における本学と地域の取り組み事例を報告。



○大井川仁美（奈良医大大学院 医学研究科）

タイトル「ウェアラブルセンサを用いた手指の巧緻性評価」

- ・日常生活動作に不可欠とされる手指の巧緻運動機能に着目し、産学連携でセンサを開発、医学とICTを組み合わせた手指の巧緻性の客観的評価手法の確立に取り組んでおり、その研究成果と課題を報告。



○會田裕紹（富士通株式会社）

タイトル「妊娠時からの子育て世代包括見守りの実証結果報告について」

- ・妊産婦の妊娠時から出産後の育児における大きな不安や悩みを、看護師常駐のコールセンターを介して医師につなぐサービス実証実験を行い、その有効性を確認し今後の事業に活かすことを報告。



○久米陵太（凸版印刷株式会社）

タイトル「IoT×サテライト拠点による“生涯活躍”推進事業」

- ・兵庫県三木市の団地に住まいする高血圧住民を対象に、MBT-Linkシステムを用いたバイタルデータや住まい環境データを分析し、適切な生活スタイルをフィードバックし血圧安定を図る実証実験を報告。